

ソフトテニスに打ち込んできた3年生諸君へ

滋賀県高体連ソフトテニス専門部 部長 瀬戸口 敏志

高校入学以来、みなさんが全身全霊で打ち込んできた部活動。その最大の目標とも言える全国高等学校総合体育大会の中止が決定してしまいました。同時にその予選を兼ねる県春季総体も中止になりました。この無情な現実直面し、みなさんの心はいかばかりかと推察します。感染症拡大の現状を考えると仕方のない決定だと頭では理解できても、これまで乗り越えてきたいくつもの試練、くじけそうになる自分と戦い続けた日々を思うとき、なかなかその現実を心が受け入れられないことと思います。

みなさんにとって、願いを持つこと、それが自分自身への挑戦の始まりでした。野に咲く花が自らの置かれた環境をすべて受け入れ、ただ花を咲かせることを願い続けるように、誰が見てくれるからというのではなく、自分自身のために、ただひたすら願い続ける毎日。理想を見失わず、しかも現実から離れず、その両者の距離を少しずつ縮めていく日々の営み。夢の実現が、ずいぶん近くに思える瞬間もあれば、遥か遠くにかすんで見える瞬間もある。その一瞬一瞬に揺れる心。みなさんは、きっと、そんな日々を過ごしてきたに違いありません。その大きな目標が、夢の舞台がチャレンジすらできずに失われてしまいました。

けれども、インターハイという大きな舞台が私たちに与えてくれるのは、それに出場できたという名誉や出場できなかったという挫折ではありません。それが私たちに与えてくれるのは夢や願いが叶う一瞬の心が震えるような大きな喜びとそれと表裏一体の心が震えるような大きな悔しさです。大切なのはその喜びや悔しさがどれくらい大きなものであるかだと思います。その大きさはそれまでどれだけ部活動に打ち込み、自分に負けずにがんばり続けてきたかということの証に他ならないからです。今年度は、全国の高校生が悔しいという思いで部活動を終えることになりますが、その悔しさが大きければ大きいほど、3年間、がんばり続けてきたことの証なのです。そのことに誇りを持ってほしいと思います。

そして、部活動はこれまでのみなさんの高校生活を喜怒哀楽でいっぱいのものにしてくれました。願うことがなければ、悲しむこともない。悔しく思うこともない。けれどもまた、喜びに胸が震えることもありません。そんな喜怒哀楽に満ちていることこそ「楽しい」ということではないでしょうか。幸せとはそうした感情に満ちている日々を過ごせることではないでしょうか。

みなさんの高校生活を楽しく、幸せなものにしてくれたソフトテニスに感謝し、どうかこれからも愛し続けてください。みなさんが愛するソフトテニスはきっとこれからもみなさんの人生を豊かで幸せなものにしてくれるに違いありません。そして多くの真理や多くの人と出会わせてくれることでしょう。

3年生のみなさん、今こそソフトテニスを通して培ってきたくじけない心を発揮し、この大きな試練に負けず、残りの高校生活をどうか悔いのないものにしてください。そのためにも、団結して、私たちから大切な多くのものを奪ってゆくこの憎き感染症に打ち勝ち、一刻も早く普通の高校生活を取り戻しましょう。